

令和4年度住宅火災における避難に関する検討会（第3回）

議事要旨

- 1 日時：令和5年1月31日（火） 13時00分から15時00分まで
- 2 場所：岡山市北消防署防災協議室
- 3 出席者
 - (1) 委員（敬称略、順不同）

松多委員（座長）、竹内委員（副座長）、水口委員、立古委員代理（服部）、高木委員代理（難波）、小西委員代理（都知木）、西山委員代理（香春）、上野委員代理（塩瀬）、上田委員
 - (2) オブザーバー
株式会社白獅子、岡崎准教授（岡山大学大学院）
 - (3) 事務局
消防局予防課 加藤課長以下6名
- 4 配付資料
 - 資料1-1 検討会設置要綱
 - 資料1-2 委員等名簿
 - 資料2 検討会概要について
 - 資料3-1 VRを活用した避難トレーニングソフトについて
 - 資料3-2 VRを活用した避難トレーニングソフトの検証結果について
 - 資料4 避難のパンフレットPR動画について
 - 資料5-1 効果的な広報モデルの概要について
 - 資料5-2 予防広報モデルについて
 - 資料6 避難のパンフレット
 - 資料7 避難のガイドライン
- 5 議事内容（◎座長発言、○委員発言、●事務局発言、■オブザーバー発言）
 - (1) 第1回目、第2回目の検討会の振り返りについて
 - 事務局
資料2により説明を行った。
 - (2) VRを活用した避難トレーニングソフトの完成について
 - 事務局
資料3-1により説明を行った。
 - 岡崎（オブザーバー）から資料3-2により説明を行った。

◎松多座長

「VRでは知識が増えないと可能性を示唆」としているが、VRとテキストの両方とも知識の差がないでよいか。

■岡崎（オブザーバー）

今回の検証では、防火テストは1回のみの実施であり、前後で比較をしていないためこのような表現となっている。

◎松多座長

少し気になったのは、テキストでも、成果がないとなるとテキスト自体にも意味がなくなってしまう。VRやテキストでも知識が増えるけど、それを自分事にしていくところにVRに差があるような表現がよいのではないか。次回検討していただければと思う。

■岡崎（オブザーバー）

承知した。

●事務局

VRソフトのデモンストレーションを行った。竹内副座長及び服部委員代理がVRを体験。

○竹内副座長

実際の運用時は選択にある、「訓練開始」から実施するのか、それとも「本番開始」から実施するのか。

●事務局

運用時は、本番から開始する予定である。練習部分は、チュートリアルとして住宅用火災警報器の音が鳴らない状態で体験ができる。

◎座長

ソフトの中身ではないが、避難訓練や、消火器訓練を実施することで、時間が短縮されるようになればよいと思う。

○竹内副座長

切迫感を感じるよいコンテンツだと思う。短時間でもわりと急がされる感じがする。何回か繰り返しやっていくのがよいかと。2回、3回とやっていくと効果的だと思う。

●事務局

1回だけではなく、複数回の体験をしてもらうことを想定している。

○地域包括ケア推進課（服部）

VRゴーグルをつけて体験中、少し慌てた。火災の現場に立ち会ったことがないので、VRで体験をしてみて、落ち着かないといけないなという気持ちになれるのはとてもよいと思う。あと、実際の使用場面としては、今回のように体験している人が見ている映像が外でも見えるのか。

●事務局

パソコンを持ち込めば見ることは可能である。

○地域包括ケア推進課（服部）

他の人が見てしまうと、答えが分かってしまうと思うので、複数のパターンがある
とよりよいと思う。

○竹内副座長

実施してみて、この住宅のレイアウトがあると、なおわかりやすいと思う。ここに
このアイテムがあつて、電話があつて、消火器の位置がわかるもの。

●事務局

実際は、紙ベースで説明書を用意している。その後にVR体験をしてもらおうと思
っている。

◎座長

いろいろな使い方があると思うが、教育現場での活用についてはどうか。

○指導課（香春）

機器の使い方や安全性と、授業であれば狙いとかも明確になると、活用できる場面
もでてくるのではないか。

◎座長

それだけではなく、何かと組み合わせて現場の先生にも伝わればと思う。

■白獅子（オブザーバー）

体験者からのフィードバックをもとにバージョンアップさせていきたいと思う。
また、新たな意見に対応していきたい。

(3) 避難のパフレットPR動画の完成について

●事務局

資料4により説明を行った。3本の動画をスライド及びサイネージにて公開する。
サイネージに動画を入れた状態で、公民館などに貸し出しができたかと考えている。

○高齢者福祉課（難波）

少し気になったのが、音が聞ける場所であればよいが、必ずしも音が出せない場所
もあるため、伝えたいメッセージなどを字幕にするなどすればより伝わりやすいの
ではないか。

○地域包括ケア推進課（服部）

サイネージに動画を入れた状態で貸し出す場合は市内37か所同時に貸し出しが
できるのか。

●事務局

サイネージは1台であるため、巡回展示ということで、生涯学習課と打ち合わせを
したところである。

○地域包括ケア推進課（服部）

岡山市にも、サイネージが使用できる場所が多数あるため、それを活用すればよい。

◎座長

非常に大事な2点の意見がでた。ぜひ、実現してもらいたい。また、動画は短時間となっていることから、少しの待ち時間で映像を流すなど、みなさんも協力ができる場所などあればぜひ提供していただきたい。

(4) 予防広報モデルの完成について

●事務局

資料5-1及び5-2により説明を行った。

○高齢者福祉課（難波）

予防広報モデルはどのような場面での活用を想定しているのか。

●事務局

主には、消防職員が行う出前講座などであるが、今回のステークホルダーである、公民館職員や教職員などでも使用ができる内容としている。

○地域包括ケア推進課（服部）

声掛けがあり、色も見やすく非常によいと思う。話のストーリーもスムーズに流れていると思う。その中で1つ、2枚目のスライドで、自宅での避難訓練の重要性という部分が少し固いかなと思う。子ども向けにも話すのであれば、別の読み方であってもよいのかと。

●事務局

承知した。

○障害福祉課（都知木）

質問1の部分は、答えが見えているが、実際は答えの部分は隠しているのか。

●事務局

その通りである。前回の原田アナウンサーの意見を取り入れている。

◎座長

昨年度を含めた広報発表会の意見がよく集約されていると思う。意見があったとおり、使う場面に合わせて変えていくのもよいと思う。

(5) 避難のパンフレットの完成について

●事務局

資料6により説明を行った。

前回からの変更点としては、ルビの修正、ガイドライン内の診断テストとマイタイムラインの解説にリンクする二次元コードを該当上部にいったこと。また、「ドアを開ける」「ドアを閉める」を「部屋のドアを開ける」「部屋のドアを閉める」に変更している。

○女性防火クラブ連絡協議会（水口）

2階で寝ていると、階段を降りてから、台所まで距離があり、どうしたらよいのか

という不安がある。住宅用火災警報器がなると思うが、そういった危機感をもっている。

◎座長

それぞれの家庭の事情というものがある。それは、生活をしている中で時とともに変化してくる。マイタイムラインを作成した時に、答えが見つからない場合もある。そういった人にどういことを伝えていけばよいのか。もちろん、個々のケース全てには対応ができないと思うが、ある程度の提案があるとよいと思う。

●事務局

今回のケースについての提案としては、ガイドライン内の診断テストの解説部分に、寝室を2階から1階にすることで安全になると書いている。これは、昨年度作成した報告書の結果を踏まえたものであり、避難にかかる時間が短くなるからである。こういった、アドバイスがヒントになるのではと思う。

◎座長

もちろん受け入れるかどうかは別だが、考える材料になるのではと思う。実際に思うのは、何人かでこのマイタイムラインを作成する。それを共有するようなことができれば、同じような環境の人がそれぞれ解決策をもっている可能性もある。パンフレットなどでマイタイムラインを作成した人の感想などを集められるようなことは難しいか。

●事務局

昨年度エビデンスカードというものを作成した。これは、広報時に相手側に二次元バーコード付きのアンケートを渡し、広報後の感想について電子申請システムを使い集める。これであれば、パンフレットに入れ込むことは可能である。

◎座長

答えてくれた人の属性などがあるとなおよい。これらの結果とVRで集めたデータをあわせればよい資料となる。

●事務局

どれだけの意見が集まるかは不透明ではあるが、内容については承知した。

(6) 避難のガイドラインの完成について

●事務局

資料7について説明を行った。

大きくは1部、2部とわかれており、1部にあつては、前回概ね了解を得ている。その中での変更点は、前回標準タイムとしていたものを、参考タイムと名称を変更した。また、本検討会の委員である、水口委員と岡山市消防局の消防音楽隊カラーガード隊の協力のもと、参考タイムを測定し、数値を入れたが、コンマ以下の有無についても議論いただきたい。最後に、実験者の表現についても、20代女性とするかご意見をいただきたい。なお、高齢者の参考タイムについて、前回の検討会で意見があが

ったこともあり、階段をおりる、階段をあげる、の2点のみ測定をしている。

○障害福祉課（都知木）

参考タイム10の「ペットをかかえる」、11の「ペットを逃がす」部分は、「測定不能」よりは、「ペットの種類による」でよいと思う。

◎座長

参考タイムが入ることで、より具体的になりよくなったなと思う。コンマ以下はいかがか。14秒33の33は不要であるかという意見もあると思う。

○竹内副座長

タイムなどは積み重ねであり、このままでもよいと思う。

◎座長

まずは、見やすさが重要である中で、信ぴょう性も必要かと思う。あとは、事務局で調整いただければと思います。

○障害福祉課（都知木）

参考タイム15の「シャワーの水をかける」の部分は、暗い状況が4秒79となっている。

●事務局

記載の誤りであり、実際は、17秒76と訂正する。なお、暗い状況の想定は、視覚障害者の体験ゴーグルを被験者に装着させている。

◎座長

20代、80代という表記であるが、一般的なタイムであるわけではなく、あくまで、今回実験協力した人が20代、80代であったという記載を入れておけばよいのではないか。

●事務局

承知した。

◎座長

続いて、マイタイムラインの評価についてはどのように修正したか。

●事務局

マイタイムラインの評価は、ルーブリック評価を使用し、尺度を「優・良・再検討」としていたが、前回指摘のあったとおり、どうしても譲れない行動があることから、「優・良・可」とした。また、項目については、評価項目を増やすことで、誰もが同様のマイタイムラインを作成することになりかねない。やってしまいがちな行動を整理して、マイタイムラインを作成するという本来の趣旨から外れることも考慮し、初動と消火の2項目とした。

◎座長

評価の項目を減らしながら、あまり行動としては、お勧めしないが、場合によっては認めましょうという形になっている。例えば、消火を3回行うことは、認められる

ものなのか。

●事務局

お勧めをするものではない。100秒ないしは200秒の避難時間という軸でフィルターがかかると思う。

◎座長

そうであれば、その部分には補足をいれてもよいのかと思う。

それでは、次に、2部の部分の説明をしてもらいたい。

●事務局

2部にあっては、関係者向けとしている。事前に打ち合わせを行い、その内容を記載しているため、各委員に補足をいただければと思う。

○指導課（香春）

教育現場において、おじいちゃん、おばあちゃんへどうやって伝えていくかだと思う。学校現場では、教育課程を前年度から決めており、基本的には教育課程に沿いながら教育活動を行っている。学校現場でも、なかなか時間がない。ただ、今回のつぶやきの内容であれば、担任の先生とか、学校の先生がうまい具合になにかのタイミングで伝えていければ効果的だとは思う。例えば、社会とか理科、家庭科の授業に少し火災の話をつぶやいてもらう。家庭科の授業では、家の間取りの話もしたりするので、そのあたりに関連させながら話はできるのかもしれない。あと、避難訓練は各学校で実施しており、その際に、家でも訓練をやってみましょうという話をするタイミングはあるのかもしれない。そのように関連させながらであれば進めていけるのではと思う。

◎座長

おそらく、現場の先生たちに考えてくださいとなると、難しいと思う。具体的な提案は、教育委員会にお願いをすることになるのか。

○指導課（香春）

実際に何年生でどの教科を教えているかが分かるのは教育委員会なのではと思う。

◎座長

そのあたりを協力いただければと思う。

○指導課（香春）

今回の案にも入っているとおり、夏休みや冬休みに入る前などはどのクラスも指導することになるので、現場の負担感を考慮しながら、少しずつやっていけたらと思う。

○生涯学習課（塩瀬）

公民館は、中学校区ごとにある。地域の方にいろいろな講座を行っている。特に、防災の講座などでは紹介できる場はある。また、その他の講座であっても、講座の最初の挨拶や、講座の中でも、取り上げることはできると思う。

◎座長

対象となる高齢者が集まる場所としては関係が深い。なんとなく、普段心に引っかかっていることなどをもとに、マイタイムラインなどに興味をもってもらうのは、非常に意味があると思う。

○地域包括ケア推進課（服部）

高齢者の介護予防の支援などを行っている。公民館と共催で、介護予防教室を全館で実施しており、その機会に、先ほどの動画や、パンフレットなどは、紹介ができると思う。また、地域の任意の団体の支援もしている。そういった団体へ紹介して、VRやカードゲームを希望する団体へ提供いただくことは可能である。

◎座長

いろいろな問題がある中で、こういう問題もあるというように、うまく連携して進められるようにしていけたらと思う。

○高齢者福祉課（難波）

つぶやきをして、行動変容をしてほしい人が誰なのか見える方がいいのではと思う。市全体としては、このパンフレットを使って、自分の振り返りをしてもらおうということが目的としてあると思う。例えば敬老会という部分については、高齢者福祉課が主催団体へお願いするのではなく、主催団体が参加した人へ声掛けなのかイメージが難しい部分があるが、実際に行動を起こしてもらいたいのは、敬老会の参加者なのかなと思う。そういった意味では、市として高齢者福祉課と消防局が主催者へアプローチするのかなと思う。

◎座長

高齢者が集まるような場所では、同じような問題意識をもっていたり、同じ地域に住んでいる人たちが話し合うことで、自分では気づいていないことを気づいたりする。そういった場所で、火事が起こったらどうするかという、マイタイムラインの内容を検討してもらうのがよいのかなと思います。

○障害福祉課（都知木）

聾学校寄宿舎火災があったことから、聴覚障害者への話となっていますが、障害福祉課としては、様々な障害者団体があり、難聴団体もある。その中で、団体とつながりをいかして周知等ができればと思う。

◎座長

おそらく、障害者本人というよりは、周りの方へ伝えることが必要なのかなと思う。

○竹内副座長

メディアであるが、ここにもあるように、2月など、火災による死者の多い時期にタイミングをあわせて啓発するのはよいと思う。放送だけではなく、SNSの展開などもメディアから発信ができればと思う。あとは、今年は、関東大震災から100年の節目の年であり、その内容に盛り込んで、お話ができたらと思う。また、夏休みや

冬休みにというわけではないが、そういった時期や正月の話の中に入れ込んでいけたらと思う。どちらかという、消防局と情報のやり取りをしながら、2月、9月を中心に協力ができたらと思う。

○女性防火クラブ連絡協議会（水口）

毎年11月あたりに行う、ワークショップなどで紹介ができる。2部のパンフレットの展開にあるプル型とプッシュ型というのはどういうものか。

●事務局

こちらは、P54に記載のとおり、プル型は、防災に興味がある人向けの広報でプッシュ型は、防災に興味がない人向けの広報のことであり、興味がある人に偏らないように、バランスをもって展開ができればと思う。

●事務局

続いて、P57の各プログラムについて、プログラムを細分化しているが意見をいただきたい。

○障害福祉課（都知木）

全部を実施しようとする、90分コースしかなくなってしまう。例えば、VRと動画をしたいとなれば、どのコースを選べばよいか。

●事務局

オーダーメイドできるプログラムもあってよいのかと思う。

○地域包括ケア推進課（服部）

高齢者団体からの申し込みであれば、理解が難しいと思うので、対象が何人で、カードやVRをやってほしいというような要望が多いのかなと思う。

◎座長

プログラムの種類が多いのかなと思う。ある程度、相談しながらカスタマイズできるようにしておくのがよいと思う。

●事務局

検討する。

○生涯学習課（塩瀬）

P58の優先順位の部分について、公民館は、中学生の自主的な社会活動の場として活用を上げている。地域の担い手として、優先順位に中学生を入れることはよいと思う。

●事務局

承知した。

○高齢者福祉課（難波）

サポーターについて、何か申込みなどを想定しているのか。また、団体という部分では町内会や自主防災組織などを想定とあったが、消防から依頼をするということではよいか。

●事務局

サポーターについては、制度としてではなく、ボランティアに近い協力者をイメージしている。団体については、岡山市消防局で所管している、連合防火委員会や、少年消防クラブなどを想定している。

◎座長

ガイドラインについては、1部2部ともに、今回の修正点を反映させて、事務局と完成させていけたらと思う。

●事務局

承知した。

(7) その他

●事務局

今回の検討事項には記載がなかったが、前回の検討会時に、タブレットという話があがった。あくまで、VRの関係でのタブレットと承知はしているが、パンフレットの診断テストとマイタイムラインをタブレットで自動計算できるソフトを用意した。

○竹内副座長

多くの人が集まる場で、このタブレットを使いながら協議することは非常によいツールだと思う。有効に活用ができる。紙だけだとなかなかできない人にもよいきっかけとなり、子どもから年配の方まで幅広く使えると思う。

●事務局

承知した。